



## **Cisco Unified Mobility Advantage での機能の設定 : Dial Via Office**

### **Configuring Features in Cisco Unified Mobility Advantage: Dial Via Office**

初版: 2009 年 09 月 24 日

最終変更: 2010 年 02 月 10 日

Text Part Number: N/A

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLYNX, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)



## 目次

### **Dial Via Office 機能について 1**

Dial Via Office 機能について 1

### **Dial Via Office - Reverse Callback の設定 3**

Cisco Unified Communications Manager の設定 3

システム レベル設定 3

ユーザ情報を取得するための標準 AXL API アクセスの設定 3

エンタープライズ機能アクセス電話番号の設定 4

アプリケーションダイヤリングルール 6

DTMF アクセスコードに関する重要な情報 7

デバイス プール要件 7

電話機間でのアクティブ コールの転送に関する前提条件の設定 7

バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバ 8

ユーザごと、デバイスごとの設定 8

Cisco Unified Communications Manager のデバイスに関する要件と制約事項 8

既存のリモート接続先の削除 9

Dial Via Office 用の Cisco Unified Communications Manager ユーザアカウントの変更 9

ユーザのプライマリ卓上電話機の変更 10

Cisco Unified Communications Manager でのデバイスの手動設定 11

一括管理を使用した Cisco Unified Communications Manager へのデバイスの追加 14

Cisco Unified Mobility Advantage での設定 14

Cisco Unified Communications Manager への接続の設定 14

Dial-Via-Office 機能の有効化とオプションの選択 17

設定変更に関する重要な情報 18

### **Dial Via Office - Forward の設定 19**

Cisco Unified Communications Manager での設定 20

Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号の指定 20

発信者 ID と Cisco Unified Mobile Communicator モビリティ ID の照合 21

バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバ 22

ゲートウェイの設定 23

Cisco Unified Mobility Advantage での設定 23

クライアントでの Dial Via Office の設定 23

設定変更に関する重要な情報 24



# 第 1 章

## Dial Via Office 機能について

---

- [Dial Via Office 機能について, 1 ページ](#)

### Dial Via Office 機能について

Dial Via Office 機能を使用すれば、卓上電話機からダイヤルしているかのように携帯電話から発信できます。

Dial Via Office - Reverse Callback と Dial Via Office - Forward の 2 つのタイプがあります。システムで両方のタイプを同時にサポートできます。要件、サポートされているクライアント、およびサポートされている Dial Via Office のタイプはクライアントごとに異なります。

Cisco Mobile for BlackBerry Release 7.1 は両方のタイプをサポートしています。発信に使用するタイプを決定するための設定はクライアントでのみ使用できます。

Cisco Unified Mobile Communicator Release 3.x クライアントは、Dial Via Office をサポートしていません。

Dial Via Office 機能の動作方法については、次のマニュアルを参照してください。

- Solutions Reference Network Design のマニュアル『*Cisco Unified Communications SRND Based on Cisco Unified Communications Manager 7.x*』の「Cisco Mobility Applications」の章。これは [http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products\\_implementation\\_design\\_guides\\_list.html](http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html) から入手可能です。
- 『*Release Notes for Cisco Unified Communications Manager for Release 7.1(3)*』。これは [http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_release_notes_list.html) から入手可能です。リリースノート内の情報は、次回の Cisco Unified Communications Manager のメジャーリリースで、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Cisco Unified Mobility Advantage and Cisco Unified Mobile Communicator Integration」の項に移動される予定です。





## 第 2 章

# Dial Via Office - Reverse Callback の設定

この機能は、Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(1) Service Update 1 以降で使用できます。

Dial Via Office - Reverse Callback は、Release 7.0 クライアントと Cisco Mobile for BlackBerry をサポートしています。

Dial Via Office - Reverse Callback の動作方法：ユーザから Dial Via Office コールが発信されると、システムがクライアントを呼び出して接続してから（クライアントによっては、自動的にコールバックに応答する場合があります）、ユーザがダイヤルした番号を呼び出して、2つのセグメントを接続します。



(注)

この機能に必要な設定の中には、他の機能にも必要なものが含まれています。Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Mobility Advantage に他の機能を提供するように設定されている場合は、この手順の一部が完了している可能性があります。

- [Cisco Unified Communications Manager の設定, 3 ページ](#)
- [Cisco Unified Mobility Advantage での設定, 14 ページ](#)
- [設定変更に関する重要な情報, 18 ページ](#)

## Cisco Unified Communications Manager の設定

### システム レベル設定

#### ユーザ情報を取得するための標準 AXL API アクセスの設定

コール履歴モニタリングと Dial Via Office を有効にするには、AXL API アクセスを使用してアプリケーションユーザアカウントを作成する必要があります。

このトピックは、Cisco Unified Communications Manager Release 5.x ~ 7.x にのみ適用されます

(Cisco Unified CallManager Release 4.x の場合は、Active Directory の [Enterprise Adapter] ページの [Advanced Settings] タブで [Work Phone] に指定したアトリビュートを使用して、Cisco Unified Mobility Advantage でコール ログ モニタリング用にモニタする回線が決定されます。このデフォルトは、telephoneNumberアトリビュートです。このアトリビュートには、ユーザごとに一意の値が含まれている必要があります)。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
- ステップ 2** [User Management] ► [Application User] を選択します。
- ステップ 3** [Add New] を選択します。
- ステップ 4** 次のフィールドに情報を入力します。
- [User ID] (CUMA\_AXL など)
  - [Password]
  - [Confirm Password]
- 必要な値を選択して、後で使用するためにメモしておきます。
- ステップ 5** [Standard CCM Super Users] グループを [Permissions Information] セクションに追加します。
- ステップ 6** [Save] を選択します。
- ステップ 7** [Standard AXL API Access] ロールが表示されることを確認します。
- ステップ 8** 展開に必要な残りのフィールドを設定します。これらの設定が Cisco Unified Mobility Advantage で使用されることはありません。
- ステップ 9** [Permissions Information] ► [Roles] リストですべての項目を選択してから、[View Details] を選択します。
- a) [Add New] を選択します。
  - b) [Role Information] リストで [Cisco Call Manager AXL Database] を選択します。
  - c) [Next] を選択します。
  - d) この新しいロールの名前と説明を入力します。
  - e) [Allow to use API] を選択します。
  - f) [Save] を選択します。
- ステップ 10** このアカウントのユーザ名とパスワードをメモします。この情報は、Cisco Unified Mobility Advantage の設定で必要になります。
- 

## エンタープライズ機能アクセス電話番号の設定

エンタープライズ機能アクセス電話番号がすでに設定されている場合、さらに変更を加える必要はありません。



Cisco Unified Communications Manager が Dial-via-Office - Reverse Callback コールでユーザをコールバックした場合は、Cisco Unified Mobility Advantage が発信者 ID のエンタープライズ機能アクセス電話番号を使用します。Dial Via Office - Forward サービス アクセス番号が設定されていない場合は、ユーザが Dial Via Office - Forward コールを開始すると、エンタープライズ機能アクセス電話番号にダイヤルされます。このエンタープライズ機能アクセス電話番号は、携帯電話のネイティブな通話履歴に表示されますが、Cisco Unified Mobile Communicator 内の通話履歴には表示されません。

Cisco Unified Mobile Communicator ユーザが Dial via Office 機能を使用しているときに、DTMF コードで通話中機能（保留、再開、パーク、会議など）にアクセスできるようにするには、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルの手順に従ってエンタープライズ機能アクセスを設定します。それ以外の場合は、このトピックの手順を使用します。

### 操作を行う前に

この項の値の設定に関する重要な情報については、Cisco Unified Communications Manager のオンラインヘルプを参照してください。

正確な値を選択できるかどうかは、ゲートウェイから渡される電話番号（7桁の場合もあれば10桁の場合もある）に依存します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
- ステップ 2** [Call Routing] ► [Mobility Configuration] を選択します。
- ステップ 3** 次のフィールドに値を入力します。

オプション	説明
[Handoff Number]	Cisco Unified Mobility Advantage ではこの番号が使用されませんが、エンタープライズ機能アクセス電話番号を作成するためにこの値を入力する必要があります。特にハンドオフ番号が必要であれば、有効なパーティションに関連付けられたダミーの内部未使用 DN を入力します。  この番号は一意である必要があります。
[Handoff Number Partition]	Cisco Unified Mobility Advantage ではこのパーティションが使用されませんが、エンタープライズ機能アクセス電話番号を作成するために何らかの値を入力する必要があります。  このパーティションは、リモート接続先のインバウンドコーリングサーチスペース内に存在する必要があります。これは、ゲートウェイまたはトランクのインバウンドコーリングサーチスペースまたはリモート接続先のコーリングサーチスペースを指しています。
[Enterprise Feature Access Directory Number]	エンタープライズ機能アクセスに必要な Direct Inward Dial (DID; ダイヤルイン) 番号を入力します。  この番号は一意である必要があります。

オプション	説明
	Cisco Unified Communications Manager Release 7.1(3) では、エンタープライズ機能アクセス電話番号の先頭に + を付けることによって国際電話をサポートできます。
[Enterprise Feature Access Directory Number Partition]	このパーティションは、リモート接続先のインバウンドコーリングサーチスペース内に存在する必要があります。これは、ゲートウェイまたはトランクのインバウンドコーリングサーチスペースまたはリモート接続先のコーリングサーチスペースを指しています。

## アプリケーションダイヤリングルール

携帯電話から番号をダイヤルする方法と卓上電話機から番号をダイヤルする方法は異なるため、Cisco Unified Communications は別々のダイヤリングルールを満たすように設定する必要があります。

たとえば、米国の会社員が卓上電話機からダイヤルする場合は、携帯電話のユーザが通常使用しない次のようなダイヤリングプレフィクスを使用する必要があります。

- 卓上電話機から同じ地域コード内の社外の番号を呼び出す場合は、「9」を先頭に付ける必要がある。
- 卓上電話機から別の地域コード内の社外の番号を呼び出す場合は、「91」を先頭に付ける必要がある。
- 卓上電話機から社外または国外の番号を呼び出す場合は「9011」を先頭に付ける必要があるが、携帯電話からの国際電話は「+」で始まることが多い。

エンドユーザがこのような追加の番号を使用せずにモバイルデバイスからダイヤルできるようにするために、国または地域に適したアプリケーションダイヤリングルールを定義します。

このダイヤリングルールは、ユーザをプロビジョニングする際に指定するモバイルデバイスの電話番号にも適用されます。



- (注) このダイヤリングルールは、Cisco Unified Mobile Communicator でユーザが指定した代替コールバック番号には適用されません。ユーザは、卓上電話機からダイヤルした場合に使用する形式で代替コールバック番号を入力する必要があります。

アプリケーションダイヤリングルールの設定方法については、Cisco Unified Communications Manager のオンラインヘルプを参照してください。このルールは、Cisco Unified Communications Manager 管理者と相談して設定してください。

## DTMF アクセスコードに関する重要な情報

このトピックは、Cisco Unified Communications Manager Release 7.x に適用されます。

Cisco Unified Communications Manager で設定する DTMF アクセスコードはすべて相互排他的にする必要があります。デフォルトのモビリティ DTMF アクセスコードが、他の通話中の DTMF アクセスコードと重複しないようにしてください。

たとえば、デフォルトで、モビリティ機能と Cisco Unity の両方で通話中機能にアスタリスク (\*) が使用されると、両アプリケーションの DTMF 機能が正しく動作しなくなります。

これは Cisco Unified Mobility Advantage に固有の問題ではありませんが、Cisco Mobile ユーザや Cisco Unified Mobile Communicator ユーザがボイスメールにアクセスしたり、通話中機能を使用したりするときに影響を受ける可能性があります。

DTMF アクセスコードを設定するには、ご使用のリリースの Cisco Unified Communications Manager に関するマニュアルを参照してください。

## デバイス プール要件

Cisco Unified Communications Manager で各ユーザのモバイルデバイスを設定する場合は、各 Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを、Cisco Unified Mobility Advantage が指している Cisco Unified Communications Manager サーバを含むデバイス プールに関連付ける必要があります。単純化するため、この目的専用のデバイス プールを作成することを検討してください。

Cisco Unified Mobility Advantage でプライマリとバックアップの両方の Cisco Unified Communications Manager サーバを指定すると、このデバイス プールに関連付けられた Cisco Unified Communications Manager グループ内の順番でサーバが列挙されます。

追加する各モバイル デバイスに関連付けられたデバイス プールの日付/時刻グループが適切である必要があります。

デバイス プールの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

## 電話機間でのアクティブ コールの転送に関する前提条件の設定

この機能は、Cisco Unified Communications Manager Release 6.x と 7.x でのみ使用できます。

ユーザが、卓上電話機と携帯電話間で進行中の MobileConnect コールと Dial Via Office コールを転送できるようにするには、Cisco Unified Communications Manager でモビリティ ハンドオフ機能 (Desktop Call Pickup 機能とも呼ばれる) を設定します。Mobility ソフトキーを Cisco Unified Mobile Communicator ユーザの卓上電話機に追加することになります。

この機能は推奨されていますが、Dial Via Office の動作に必要なわけではありません。

## 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
  - ステップ 2 [Device] ► [Device Settings] ► [Softkey Template] を選択します。
  - ステップ 3 新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートを修正します。
  - ステップ 4 ウィンドウの右上隅にある [Related Links] メニューから、[Configure Softkey Layout] を選択します。
  - ステップ 5 [Go] を選択します。
  - ステップ 6 [Select a call state to configure] で [Connected] を選択します。
  - ステップ 7 [Mobility] を、選択したソフトキーに追加します。
  - ステップ 8 [Save] を選択します。
- 

## バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバ

バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバを展開する場合は、展開するすべての機能とそれらに関する依存関係に対してサーバが適切に設定されていることを確認します。たとえば、プライマリサーバが使用できない場合は、ゲートウェイによって Dial Via Office コールがバックアップサーバのエンタープライズ機能アクセス電話番号にルーティングされることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager のバージョン、ポート、セキュリティ要件、および CTI と AXLAPI ユーザの資格情報をプライマリサーバとバックアップサーバで同じにする必要があります。

通話履歴モニタリング用の CTI ユーザに対するデバイスの割り当てを含め、両方のサーバ上ですべてのユーザとデバイスを設定して保存したことを確認します。

SIP ゲートウェイまたは H323 ゲートウェイを使用する場合は、フェールオーバー後にゲートウェイをバックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバに向けて、ユーザが新しい Dial Via Office - Forward コールを発信できるようにする必要がありますことに注意してください。

フェールオーバー後は、既存の Dial Via Office コールは継続しますが、保留などの通話中機能は使用できません。

## ユーザごと、デバイスごとの設定

## Cisco Unified Communications Manager のデバイスに関する要件と制約事項

これらの要件は、Cisco Unified Communications Manager に依存している Cisco Unified Mobility Advantage 内のすべての機能に適用されます。

- Cisco Unified Communications Manager 内の各ユーザのユーザ ID は、Active Directory 内のユーザ ID (デフォルトで、sAMAccountName アトリビュート) と一致する必要があります。

- 各ユーザは、Cisco Unified Communications Manager でプライマリ卓上電話機を正しく設定しておく必要があります。この卓上電話機を使用して、内線通話、外線通話、および該当する場合に国際通話を発信または着信できます。
- この手順では、プライマリ内線番号が卓上電話機の電話番号であることを前提とします。卓上電話機のオーナー ユーザ ID が設定されていることを確認してください。
- 前述した Cisco Unified Communications Manager の該当するすべてのシステム レベル要件を設定しておく必要があります。
- 各携帯番号はシステム内で一意にする必要があります、Cisco Unified Mobility Advantage と一緒に使用する場合はモビリティ ID として、そうでない場合はリモート接続先として設定できませんが、両方を同時には設定できません。

たとえば、Cisco Unified Communications Manager Release 7.x を使用しており、Nokia Symbian 電話機用の Release 3.x クライアントのユーザがクライアントを Release 7.x に移行後も同じ携帯電話番号を使用する予定の場合は、この項の手順の後に、既存のリモート接続先プロフィールを削除してから、Cisco Unified Communications Manager でユーザとデバイスを設定する必要があります。

## 既存のリモート接続先の削除

携帯電話番号をリモート接続先として設定したことがある場合は、その設定を削除しないかぎり、それらの番号を Cisco Unified Mobile Communicator クライアント用のモバイル ID として追加できません。

このトピックの手順を使用して、このタスクをバッチ処理として実行します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide』を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** 影響を受けるユーザの既存のリモート接続先設定をエクスポートします。
  - ステップ 2** CSV ファイルを手動で編集してリモート接続先を削除します。
  - ステップ 3** 新しい Cisco Unified Mobile Communicator 用の BAT テンプレートを作成します。
  - ステップ 4** BAT 電話機挿入プロセスを使用して、携帯電話番号を Cisco Unified Mobile Communicator 用のモビリティ ID として設定します。
- 

## Dial Via Office 用の Cisco Unified Communications Manager ユーザアカウントの変更

モビリティ機能を有効にすると、Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) が少なくなる場合があります。詳細については、Cisco Unified Communications Manager のオンラインヘルプで「Enable Mobility」を検索してください。

## 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
  - ステップ 2 [User Management] ► [End User] を選択します。
  - ステップ 3 変更するユーザ アカウントを探します。
  - ステップ 4 [Enable Mobility] を選択します。
  - ステップ 5 このユーザの [Primary User Device] を選択します。
  - ステップ 6 [Directory Number Associations] セクションで [Primary Extension] を選択します。これは、選択したばかりのプライマリ ユーザ デバイスの電話番号です。
  - ステップ 7 [Save] を選択します。
- 

## ユーザのプライマリ卓上電話機の変更

この機能は、Cisco Unified Communications Manager Release 6.x と 7.x でのみ使用できます。

この手順によって、卓上電話機と携帯電話間でアクティブなコールを転送できます。この機能は、推奨されているが、必須ではない一般的なモビリティ機能です。

### 操作を行う前に

- [電話機間でのアクティブ コールの転送に関する前提条件の設定, 7 ページ](#)の手順を完了します。
- すべての携帯電話ユーザの卓上電話機に割り当てられる共通デバイス設定が完了している場合は、この手順の説明に従って、各電話機ではなく共通デバイス設定を変更します。

## 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
  - ステップ 2 Cisco Mobile または Cisco Unified Mobile Communicator ユーザのプライマリ卓上電話機に関連付けられたページに移動します。
  - ステップ 3 [Softkey Template] フィールドを探します。
  - ステップ 4 電話機間でのアクティブ コールの転送用に作成したソフトキー テンプレートを選択します。
  - ステップ 5 [Save] を選択します。
  - ステップ 6 発信者 ID を設定します。
    - a) ユーザのプライマリ回線（通常は卓上電話機）が表示されているデバイスに対して、必要に応じて次のフィールドの発信者 ID 情報（名前または電話番号）を確認します。
      - [Display (Internal Caller ID)]
      - [ASCII Display (Internal Caller ID)]

- [External Phone Number Mask]

- 発信者 ID 値に対応するボックスをオンにして、共有デバイス（Cisco Unified Mobile Communicator が含まれる）に対して有効にします。
- [Propagate Selected] を選択します。

**ステップ 7** [Save] を選択します。

**ステップ 8** Cisco Mobile ユーザまたは Cisco Unified Mobile Communicator ユーザごとにこの手順を繰り返します。

## Cisco Unified Communications Manager でのデバイスの手動設定

この手順は、Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(1) Service Update 1 以降に適用されます。

Dial via Office 機能と Mobile Connect 機能を提供するように、Cisco Mobile クライアントを含む Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを Cisco Unified Communications Manager で設定します。

Cisco Unified Communications Manager Release 6.x の場合は、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルの手順に従ってリモート接続先を設定し、MobileConnect 機能を有効にします。

### 操作を行う前に

- この章で前述したすべての要件に対処し、すべての設定を完了しておきます。
- Mobile Connect 機能（以前の Single Number Reach）が Cisco Unified Mobility Advantage から独立して動作している必要があります。
- Cisco Unified Mobile Communicator デバイス用に使用する予定の電話番号がすでに Cisco Unified Communications Manager 上でリモート接続先として設定されている場合は、この手順を実行する前にその番号のリモート接続先を削除します。携帯番号はシステム内で一意にする必要があります。
- [デバイスプール要件, 7 ページ](#) の内容についてよく理解しておきます。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。

**ステップ 2** 携帯電話を追加します。

- [Device] ► [Phone] を選択します。
- [Add New] を選択します。
- [Phone Type] として、[Cisco Unified Mobile Communicator] を選択します。  
Cisco Mobile クライアントに対してもこのデバイスを使用します。
- [Next] を選択します。
- 次の値を入力します。

オプション	説明
[Device Name]	説明的な名前 (15 文字以下)
[Device Pool]	<p>デバイス プール要件を確認する際に専用のデバイス プールを作成した場合は、デバイス プールを選択します。</p> <p>専用のデバイス プールを作成しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager グループ内に、後で Cisco Unified Mobility Advantage (Cisco Unified Communications Manager 用のエンタープライズアダプタ内) で指定する Cisco Unified Communications Manager サーバが含まれているデバイス プールを指定します。</p> <p>デバイス プールの日付/時刻グループが適切なことを確認します。</p>
[Phone Button Template]	[Standard Cisco Unified Mobile Communicator] を選択します。
[Calling Search Space]	このコーリング サーチ スペースには、Dial-via-Office 機能での使用を許可する一連の宛先番号が含まれている必要があります。これは通常、(両デバイスに同じコール特権が適用されると仮定して) Desk Phone に関連付けられる同じコーリング サーチ スペースです。
[Owner User ID]	ユーザのユーザ ID です。
[Mobility User ID]	ユーザのユーザ ID です。
[Primary Phone]	このデバイスが関連付けられるプライマリ電話機です。
[Reroute Calling Search Space]	<p>Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス設定内のリルーティング コーリング サーチ スペースに次の両方が含まれていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザの卓上電話機内線番号のパーティション (この要件は、ルーティング コール用ではなく、Dial via Office 機能を提供するためにシステムで使用されます)。</li> <li>• モバイル ID 番号へのルートと任意のリモート接続先</li> </ul> <p>モバイル ID へのルート (ゲートウェイ/トランクパーティションなど) は、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスの社内内線番号のパーティションよりも優先順位を高くする必要があります。</p> <p>Cisco Unified Mobile Communicator を使用すれば、ユーザはモバイル ID に加えて代替コールバック番号も指定できることと、到達可能な代替コールバック番号がリルーティング コーリング サーチ スペースによって制御されることに注意してください。</p>



オプション	説明
[All others]	このアプリケーションの場合は、特定の値が必要ありません。 Cisco Unified Communications Manager の展開に適した値を選択するか、オンライン ヘルプの手順を参照します。

f) [Save] を選択します。

**ステップ 3** 携帯電話をユーザのプライマリ卓上電話機の番号に関連付けます。

- [Line [1] - Add a New DN] を選択します。
- プライマリ電話機（通常は卓上電話機）の電話番号を入力します。
- 該当する場合はルートパターンを入力します。
- Tab を押します。  
ページの残りのフィールドは自動的にデータが入力されます。

e) [Save] を選択します。

**ステップ 4** ページの右上にある [Related Links] リストボックスを使用して、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスのページに戻ります。

- [Associated Devices] リストにスクロールします。
- [Cisco Unified Mobile Communicator] デバイスを選択します。
- [Edit Device] を選択します。

**ステップ 5** 携帯電話を特定します。

- スクロールダウンして、[Add New Mobile Identity] を選択します。
- 次の値を入力します。

オプション	説明
[Destination Number]	（ダイヤルアウトプレフィクスなどの）プレフィクス番号がない携帯電話番号 この値は、Cisco Unified Mobility Advantage Admin Portal でこのユーザ用に入力した電話番号と正確に一致する必要があります。 この番号は、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスとリモート接続先全体で一意にする必要があります。 これは、Dial-via-Office - Reverse Callback 機能が呼び出すデフォルトの番号です。 この番号は、Dial Via Office - Forward コールを検証するための発信者 ID マッチングで使用されます。
[All others]	社内の設定によって異なります。デフォルトをそのまま使用するか、社内の規定またはオンライン ヘルプの手順に従います。

c) [Save] を選択します。

(注) リモート接続先を追加する場合は、このページではなく、ユーザのリモート接続先プロファイル ([Device Settings] > [Remote Destination Profile]) を使用します。

**ステップ 6** このユーザの Cisco Unified Mobile Communicator デバイス設定ページに戻ります。

**ステップ 7** [Reset] を選択します。

---

#### 次の手順

既存の設定を変更した場合は、クライアントからユーザをサインアウトしてから、再度サインインします。

## 一括管理を使用した Cisco Unified Communications Manager へのデバイスの追加

Cisco Unified Communications Manager 内の一括管理ツールを使用して、iPhone などのユーザ用の Cisco Unified Mobile Communicator デバイスをバッチ処理として追加します。

このトピック内の手順を使用してこのタスクを実行します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』を参照してください。

#### 操作を行う前に

[Cisco Unified Communications Manager でのデバイスの手動設定](#), 11 ページに記載されているように、必要なフィールドと値を決定します。

#### 手順

---

**ステップ 1** 電話機タイプ Cisco Unified Mobile Communicator の新しい電話機テンプレートを作成します。

**ステップ 2** BAT 電話機挿入プロセスを使用して、携帯電話番号を Cisco Unified Mobile Communicator 用のモビリティ ID として設定します。

---

## Cisco Unified Mobility Advantage での設定

### Cisco Unified Communications Manager への接続の設定

Cisco Unified Mobility Advantage から接続できるように、Cisco Unified Communications Manager 用のエンタープライズアダプタを設定します。

Cisco Unified Communications Manager に依存している他の機能が設定されている場合は、これらの設定の一部または全部が設定済みの可能性があります。

## 手順

- ステップ 1 [Enterprise Configuration] の横にある [+] を選択します。
- ステップ 2 [Enterprise Adapters] を選択します。
- ステップ 3 [Add new adapter] を選択します。
- ステップ 4 [Cisco Unified Communications Manager] を選択します。
- ステップ 5 名前と説明を入力します。  
これらの値を後で変更するには、アダプタを一旦削除して再度追加する必要があります。
- ステップ 6 [Submit] を選択します。
- ステップ 7 次の情報を入力します。

オプション	説明	設定した値
<b>アドレス情報</b>		
[Primary Host Name]	作成された CTI 対応アカウントを実行しているプライマリ Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名または IP アドレス。	
[Primary Server Port]	プライマリ Cisco Unified Communications Manager サーバとの通信に使用されるポート。 デフォルトは 5060 です。	
[Backup Host Name]	バックアップ サーバのホスト名または IP アドレス。 バックアップ サーバを入力する場合は、Cisco Unified Communications Manager のバージョン、ポート、セキュリティ要件、および CTI と AXL API ユーザの資格情報をプライマリサーバとバックアップサーバで同じにする必要があります。	
[Backup Server Port]	バックアップの Cisco Unified Communications Manager サーバとの通信に使用されるポート。	
<b>CTI ユーザ資格情報</b>		
[User Name]	コール履歴モニタリングまたは Dial via Office 用に Cisco Unified Communications Manager で作成した CTI 対応アカウントを入力します。 最大 4 つの CTI ユーザアカウントを追加できます。	
[Password]	上記ユーザ名 (1 つまたは複数) に関連付けられたパスワード (1 つまたは複数) を入力します。	
<b>SIP 情報</b>		

オプション	説明	設定した値
[Transport Type]	セキュア接続の場合は [TLS] を選択します。 通常の接続の場合は [TCP] を選択します。 デフォルトの転送タイプは [TCP] です。 これは、Cisco Unified Communications Manager サーバ上の [CUMA Server Security Profile] の設定と一致する必要があります。	
[Communications Manager Version]	Cisco Unified Mobility Advantage が動作中の場合は、それを停止してからこの値を変更してください。	
[Web Services Information] この項目内の情報は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 7.0 以降を選択した場合にのみ表示されます。		
[Https Port]	Cisco Unified Communications Manager サーバの SIP ポート番号。 この多くは、Cisco Unified Communications Manager Administration ページを実行するセキュア ポートと同じです。 Cisco Unified Communications Manager はこのポートで AXL インターフェイスを実行します。 デフォルトは 8443 です。	
[User Name]	標準 AXL API アクセスを割り当てた Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション ユーザ名。	
[Password]	上記ユーザのパスワード。	
追加情報		
[Security Context]	このオプションは、Release 7.0 以前の Cisco Unified Communications Manager リリースでは使用できません。 Cisco Unified Communications Manager サーバのセキュリティ コンテキストを選択します。 最も単純な設定では、[Trust Policy] が [All Certificates] に設定されたセキュリティ コンテキストを選択します。 [Trust Policy] が [Trusted Certificates] に設定されているセキュリティ コンテキストを選択した場合は、必要な資格情報を準備する必要があります。	

ステップ 8 [Submit] を選択します。

ステップ 9 Cisco Unified Mobility Advantage を再起動します。

## Dial-Via-Office 機能の有効化とオプションの選択

### 手順

- ステップ 1 [Enterprise Configuration] の横にある [+] を選択します。
- ステップ 2 [Manage Adapter Services] を選択します。
- ステップ 3 [Call Control Service] を選択します。
- ステップ 4 次のオプションを設定します。

オプション	説明
[Enable Corporate PBX Integration]	[Yes] を選択すると、Cisco Unified Mobile Communicator に Dial Via Office 機能が提供されます。  このオプションを [No] に設定した場合は、ユーザがクライアントで通話履歴を表示できなくなります。
[Enable Dial via Office]	[Yes] または [No] を選択します。
[Dial Via Office Policy]	オプションを選択します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Force Dial Via Office] : すべてのユーザが、携帯電話からのコールをオフィスの電話番号経由で発信する必要があります。</li> </ul> 何らかの理由によってオフィス経由でダイヤルできない場合は、モバイルデバイスから直接ダイヤルできます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• [User Option] : ユーザは直接ダイヤルするコールとオフィス経由でダイヤルするコールを選択できます。</li> </ul>
[Dial via Office Emergency Numbers]	常に携帯電話から直接ダイヤルし、社内 PBX システムを経由することがない番号を指定します。  リストの各番号をコンマで区切ります。  携帯電話から直接ダイヤルする番号を入力します。たとえば、112、911、999 です。

オプション	説明
	<p>緊急電話番号を入力する必要があります。また、電話帳情報などの番号を含めることもできます。</p> <p>ユーザが出張するすべての国の緊急電話番号を含めます。</p>

このページのその他のオプションは、通話履歴機能で使用されます。

**ステップ 5** [Submit] を選択します。

**ステップ 6** Cisco Unified Mobility Advantage を再起動して変更をアクティブにします。

## 設定変更に関する重要な情報

- Cisco Unified Communications Manager アダプタ上で変更を実施する前に Cisco Unified Mobility Advantage を停止して、変更を送信してから Cisco Unified Mobility Advantage を再起動します。  
Cisco Unified Mobility Advantage を停止すると、Cisco Mobile と Cisco Unified Mobile Communicator からすべてのユーザがサインアウトされます。
- CTI 対応アカウントまたは AXL API アクセスを割り当てたアプリケーションユーザアカウントのユーザ ID またはパスワードを変更した場合は、Cisco Unified Mobility Advantage の Admin Portal で Cisco Unified Communications Manager 用のエンタープライズアダプタを更新する必要があります。その後で、Cisco Unified Mobility Advantage を再起動します。
- Cisco Unified Communications Manager でシステムレベル設定を変更した場合は、その変更を反映させるために Cisco Unified Mobility Advantage を再起動する必要があります。
- 個別のデバイスまたはユーザアカウントへの変更を含めて、変更を実施中の場合は、変更を反映させるためにユーザをクライアントからサインアウトしてから再度サインインする必要があります。



## 第 3 章

# Dial Via Office - Forward の設定

Dial Via Office - Forward は、Cisco Unified Communications Manager Release 7.1(3) 以降で使用できません。

Dial Via Office - Forward は Cisco Mobile クライアント上でしかサポートされません。Release 7.0 クライアントは、Dial Via Office - Reverse Callback のみを使用します。

Dial via Office - Forward を使用したコールでは、Dial Via Office を使用して会議室のスピーカーフォンなどの代替番号にコールを接続できません。

Dial Via Office - Reverse Callback を設定してから、Dial Via Office - Forward を設定します。前者のすべての設定が後者にも必要です。

Cisco Unified Mobility Advantage Release 7.0 からアップグレードしてすでに Dial Via Office が動作している場合は、Dial Via Office - Forward をサポートするために Reverse Callback 設定に新たな変更を加える必要はありません。

Dial Via Office 機能の動作方法については、次のマニュアルを参照してください。

- Solutions Reference Network Design のマニュアル『*Cisco Unified Communications SRND Based on Cisco Unified Communications Manager 7.x*』の「Cisco Mobility Applications」の章。これは [http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products\\_implementation\\_design\\_guides\\_list.html](http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_implementation_design_guides_list.html) から入手可能です。
- 『*Release Notes for Cisco Unified Communications Manager for Release 7.1(3)*』。これは [http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_release_notes_list.html) から入手可能です。リリースノート内の情報は、次回の Cisco Unified Communications Manager のメジャーリリースで、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Cisco Unified Mobility Advantage and Cisco Unified Mobile Communicator Integration」の項に移動される予定です。
- [Cisco Unified Communications Manager での設定, 20 ページ](#)
- [ゲートウェイの設定, 23 ページ](#)
- [Cisco Unified Mobility Advantage での設定, 23 ページ](#)
- [クライアントでの Dial Via Office の設定, 23 ページ](#)

- ・ [設定変更に関する重要な情報](#), 24 ページ

## Cisco Unified Communications Manager での設定

Cisco Unified Communications Manager で次の内容を設定します。

### Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号の指定

ユーザが Dial via Office - Forward コールを発信した場合、実際には携帯電話が、ユーザが到達しようとしている番号ではなく、Dial via Office - Forward 機能にアクセスする番号をダイヤルします。このダイヤルされるアクセス番号は、Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号（この手順を使用して設定した場合）と Cisco Unified Communications Manager 内のエンタープライズ機能 アクセス電話番号のどちらかです。

Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号とエンタープライズ機能アクセス電話番号の両方が、ゲートウェイから Cisco Unified Communications Manager に渡される桁数と一致する必要があります。Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号を設定する場合は、E.164（グローバルにダイヤル可能）番号にする必要があります。

たとえば、エンタープライズ機能アクセス電話番号が 81151234（(408) 555-1234 を表すが、外線番号からダイヤルできない番号）の場合は、Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号が携帯電話からダイヤル可能な番号の 4085551234 になります。Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号へのコールが適切にエンタープライズ機能アクセス電話番号にルーティングされるようにシステムを設定する必要もあります。

次のような状況で、Dial-via-Office Forward サービス アクセス番号を指定する必要があります。

- ・ 上の例で説明したように、エンタープライズ機能アクセス電話番号が携帯電話などの外線番号からダイヤルできない。
- ・ ユーザが任意の国からこの機能を使用できるようにしたい。この場合は、番号の先頭にバックslashとプラス記号 (\+) を付加します。
- ・ 番号をフリーダイヤルにしたい（米国の 800 番など）。

#### 操作を行う前に

すべてのクライアントが Dial Via Office - Forward だけを使用している場合でも、Dial Via Office - Reverse Callback に必要な設定手順のすべてを実行します。Dial Via Office - Forward の場合も同じ設定が必要です。[Dial Via Office - Reverse Callback 用の Cisco Unified Communications Manager の設定方法](#) を参照してください。



## 手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
- ステップ 2 [System] > [Service Parameters] を選択します。
- ステップ 3 アクティブ サーバを選択します。
- ステップ 4 [Cisco CallManager (Active)] サービスを選択します。
- ステップ 5 [Clusterwide Parameters (System - Mobility)] セクションまでスクロール ダウンします。
- ステップ 6 [Dial-via-Office Forward Service Access Number] をクリックして、この値の必須要件を確認します。
- ステップ 7 サービス アクセス電話番号を入力します。  
複数の国からのダイヤリングをサポートするには、番号の先頭にバックスラッシュとプラス記号 (+) を付加します。  
この番号が指定された要件を満たしていることを確認します。
- ステップ 8 [Save] を選択します。

## 発信者 ID と Cisco Unified Mobile Communicator モビリティ ID の照合

許可された電話機のみがこの機能にアクセスできることを保証するには、システム内で設定された電話機から Dial Via Office - Forward コールをダイヤルする必要があります。

デフォルトで、Cisco Unified Communications Manager 内の Cisco Unified Mobile Communicator デバイスごとに設定した、またはこれから設定するモバイル ID 番号（モビリティ ID と呼ばれる）が、Dial via Office - Forward コールを開始した Cisco Unified Mobile Communicator デバイスの発信者 ID と正確に一致する必要があります。これは、その発信者 ID がゲートウェイから Cisco Unified Communications Manager に渡されるためです。

ただし、これらの番号が全く一致しないようにシステムが設定される場合があります。たとえば、モバイル ID 番号には国番号が含まれているが、発信者 ID には含まれていない場合です。その場合は、部分的な一致を認識するようにシステムを設定する必要があります。

たとえば、同じ電話番号が別々の地域コード内または別々の国内に存在するような状況を想定してください。

### 操作を行う前に

モビリティ ID 値と発信者 ID 値を比較して、この手順を実行する必要があるかどうかを判断してください。

モビリティ ID は、Cisco Unified Communications Manager で入力されたモバイルデバイスの電話番号です。Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを追加するときに、各ユーザのモビリティ ID 電話番号を入力します。アップグレード中の場合は、この処理がすでに終わっています。これが新しいインストールの場合は、後で各ユーザとデバイスを設定するときに、この処理を実行します。[Cisco Unified Communications Manager でのデバイスの手動設定, 11 ページ](#)を参照してください。

アップグレード中の場合は、代表的なエントリを確認できます。Cisco Unified Communications Manager Admin Portal で、[Device] > [Phone] を選択してから、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスを選択します。[Associated Mobility Identity] セクションで [Destination Number] を調査します。

これが新しいインストールの場合は、期待値を入力して、必要な場合は、テストユーザとデバイスを設定してからこの項に戻ります。

## 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Admin インターフェイスにサインインします。
  - ステップ 2 [System] > [Service Parameters] を選択します。
  - ステップ 3 アクティブ サーバを選択します。
  - ステップ 4 [Cisco CallManager (Active)] サービスを選択します。
  - ステップ 5 [Clusterwide Parameters (System - Mobility)] セクションまでスクロールダウンします。
  - ステップ 6 [Matching Caller ID with Remote Destination] を選択して、この値に関する必須情報を確認します。
  - ステップ 7 [Partial Match for Matching Caller ID with Remote Destination] を選択します。
  - ステップ 8 [Number of Digits for Caller ID Partial Match] を選択して、この値に関する必須要件を確認します。
  - ステップ 9 部分一致を保証するために必要な桁数を入力します。
  - ステップ 10 [Save] を選択します。
- 

## バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバ

バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバを展開する場合は、展開するすべての機能とそれらに関する依存関係に対してサーバが適切に設定されていることを確認します。たとえば、プライマリサーバが使用できない場合は、ゲートウェイによって Dial Via Office コールがバックアップサーバのエンタープライズ機能アクセス電話番号にルーティングされることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager のバージョン、ポート、セキュリティ要件、および CTI と AXLAPI ユーザの資格情報をプライマリサーバとバックアップサーバで同じにする必要があります。

通話履歴モニタリング用の CTI ユーザに対するデバイスの割り当てを含め、両方のサーバ上ですべてのユーザとデバイスを設定して保存したことを確認します。

SIP ゲートウェイまたは H323 ゲートウェイを使用する場合は、フェールオーバー後にゲートウェイをバックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバに向けて、ユーザが新しい Dial Via Office - Forward コールを発信できるようにする必要がありますことに注意してください。

フェールオーバー後は、既存の Dial Via Office コールは継続しますが、保留などの通話中機能は使用できません。

## ゲートウェイの設定

着信 Dial Via Office - Forward コールを Cisco Unified Communications Manager にルーティングするようにゲートウェイを設定します。

次の例は、H.323 ゲートウェイにのみ適用されます。

### 手順

**ステップ 1** ゲートウェイに telnet します。

**ステップ 2** 次のコマンドを実行します。

```
conf t
dial-peer voice <Dial-via-Office Forward Service Access Number if you have configured one,
else your Enterprise Feature Access Directory Number> voip
session target ipv4: <IP address of your Cisco Unified Communications Manager server>
end
write mem
```

### 次の手順

バックアップ Cisco Unified Communications Manager サーバを展開する場合は、プライマリ サーバでの障害発生時にインバウンド コールをバックアップ サーバにルーティングするようにゲートウェイを設定します。『*H.323 Gateway Dial-Peer Configuration for Cisco CallManager Server Redundancy*』で同様の設定例を参照してください。これは [http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicessw/ps556/products\\_configuration\\_example09186a0080094852.shtml](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicessw/ps556/products_configuration_example09186a0080094852.shtml) から入手できます。

## Cisco Unified Mobility Advantage での設定

Dial via Office - Reverse Callback 機能が正しく設定されていれば、次の点を除いて、Dial via Office - Forward をサポートするために Cisco Unified Mobility Advantage をさらに設定する必要はありません。

Cisco Unified Communications Manager 用のエンタープライズアダプタで、[Cisco Unified Communications Manager version] に対して [7.1+] が選択されていることを確認してください。

## クライアントでの Dial Via Office の設定

クライアントの [Settings] 内の [Calls] セクションで、この機能に関する設定をユーザにチェックさせます。

## 設定変更に関する重要な情報

- Cisco Unified Communications Manager アダプタ上で変更を実施する前に Cisco Unified Mobility Advantage を停止して、変更を送信してから Cisco Unified Mobility Advantage を再起動します。  
Cisco Unified Mobility Advantage を停止すると、Cisco Mobile と Cisco Unified Mobile Communicator からすべてのユーザがサインアウトされます。
- CTI 対応アカウントまたは AXL API アクセスを割り当てたアプリケーション ユーザ アカウントのユーザ ID またはパスワードを変更した場合は、Cisco Unified Mobility Advantage の Admin Portal で Cisco Unified Communications Manager 用のエンタープライズアダプタを更新する必要があります。その後で、Cisco Unified Mobility Advantage を再起動します。
- Cisco Unified Communications Manager でシステムレベル設定を変更した場合は、その変更を反映させるために Cisco Unified Mobility Advantage を再起動する必要があります。
- 個別のデバイスまたはユーザアカウントへの変更を含めて、変更を実施中の場合は、変更を反映させるためにユーザをクライアントからサインアウトしてから再度サインインする必要があります。